平成３０年１月

各　位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成３０年１月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださるようお願いいたします。

さて、市では、昨年１２月に２０１７年の十大ニュースを発表しました。

《２０１７年 八戸市十大ニュース》

1. 中核市八戸誕生（１月）
2. 青森県内初　八戸圏域連携中枢都市圏誕生（３月）
3. 八戸市「市制施行８８周年」多彩なイベントを開催（５月）
4. ユネスコ登録元年「八戸三社大祭」日程を１日追加し６日間開催（８月）
5. 八戸市長選で小林眞市長が４選を果たす（１０月）
6. クマ出没し、負傷者３名（１１月）
7. 八戸市立西白山台小開校　小学校新設は２１年ぶり（４月）
8. 八戸港のスルメイカ漁３年連続の不漁の公算（１０月）
9. 沼館地区に津波避難ビル「八戸市津波防災センター」完成（５月）
10. ヴァンラーレ八戸ホームゲーム目標入場者数は達成するも、惜しくもＪ３昇格ならず　来季へ期待（１１月）

２０１７年は、八戸市が中核市として新たにスタートした年でした。また、市制施行８８周年や、ユネスコに登録されて最初の八戸三社大祭など、明るいニュース盛りだくさんの年でした。

今年も産業や観光、文化など様々な側面で、昨年以上に明るいニュースがありますことを願っております。

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館５階

電話　(03) 3261-8973／FAX　(03) 3239-6723

E-mail:　tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸レポート 1月号

平成29年12月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
（１）	八戸ブックセンター 開設１周年企画展 「紙から本ができるまで展」
（２）	是川縄文館 ランチで"柿の里"PR
（３）	眞木信政さんに八戸特派大使を任命 八戸航空基地勤務が縁
（４）	八戸市スポーツ大使 女子レスリングの小原日登美さんに委嘱

【産業】

記事	概要
（５）	東北新幹線八戸開業１５周年 一層の経済・観光振興に意欲
（６）	JR八戸線 新型車両「キハE130系500代」デビュー
（７）	「３０１０運動」ホテル・飲食店がPR ～忘新年会の残食減らそう～
（８）	八戸学院グループ 紹介事業 八戸などの企業５社がフィリピンの学生採用へ
（９）	日本公庫 みろく横丁に外国人との"意思疎通シート"贈呈
（１０）	駅弁味の陣２０１７ 吉田屋の「うにとウニと雲丹 味くらべ弁当」が食べたい駅弁No.１
（１１）	八戸港２０１７年水揚げ ２年連続１０万トン割れ

【地域】

記事	概要
（１２）	種差小が内閣総理大臣賞受賞 海岸清掃や２９年間の資源回収評価
（１３）	「マリエント『ちきゅう』たんけんクラブ」 海洋科学 学んで１０周年
（１４）	八高専 CG分野のコンテスト「ニコグラフ２０１７」でベスト作品賞受賞
（１５）	全日本洋装技能コンクール 八戸市の佐藤千鶴子さんが経産大臣賞
（１６）	みちのく庭園（八戸）庭職人・橋本さん 庭空間施工例コンテストでトリプル受賞
（１７）	２０１５年都道府県別平均寿命 青森県が男女とも最下位
（１８）	八戸盲学校で短歌学習会 講師に歌人・梅内美華子さん
（１９）	～届け 友好のボート～ 八戸⇔米国オレゴン州ミニボートで7200キロ横断
（２０）	中居林小が「地域学校協働活動」推進に貢献 文部科学大臣賞を受賞
（２１）	エレクトーン世界大会 一般部門 川上さん（ウルスラ高3年）が優勝

【文化・スポーツ】

記事	概要
（２２）	八戸市立屋内スケート場 世界ジュニア選手権招致へ
（２３）	八戸駅西地区にゼビオアリーナ建設着手へ

【行政】

記事	概要
（1）	**八戸ブックセンター 開設１周年企画展 「紙から本ができるまで展」** 八戸ブックセンターで12月13日、開設1周年を記念し、ギャラリー企画「紙から本ができるまで展」が始まった。企画展に併せ、同センターでは八戸市出身の作家木村友祐さんの作品集「幸福な水夫」（未來社）をプロデュース。作家が手直しした原稿や、本の設計書、巨大なロール紙、印刷や装丁の指示書など、普段見ることができない本の制作過程を紹介している。午前10時～午後8時、入場無料。3月11日まで（火曜日休館）。
（2）	**是川縄文館 ランチで“柿の里”PR** 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館は、青森県南地方に伝わる渋柿「妙丹柿」を使った新メニュー「柿ランチプレート」を12月17日から、館内の「これカフェ」で提供している。プレートは、酢に漬け込んだ柿ピクルスが載ったサラダとご飯、柿ジャムのゼリーに加え、メインは鶏肉のパン粉焼きとなっていて、八戸せんべい汁も付く。是川地区に根付いてきた柿を活用し“柿の里”としてPRしていく考え。税込み500円。土日、祝日のみの提供で、1日10食限定。
（3）	**眞木信政さんに八戸特派大使を任命 八戸航空基地勤務が縁** 八戸市は12月20日、元海上自衛隊航空集団司令官の眞木信政さん(58)＝神奈川県在住＝を八戸特派大使に任命した。眞木さんは、愛媛県出身。第2航空群司令として八戸基地に勤務していた2011年、東日本大震災を経験。津波が迫る中、自らの判断で基地ゲートを開放し、付近で渋滞していた車を基地内に受け入れ、多くの避難者を救った。この行動は後に防衛省から適切な判断と総括された。通算で3年間、八戸航空基地に勤務していた眞木さんは「当時は多くの市民に支えられた。八戸の魅力を広く発信していきたい」と意欲を示した。
（4）	**八戸市スポーツ大使 女子レスリングの小原日登美さんに委嘱** 八戸市は12月28日、2012年ロンドン五輪レスリング女子48キロ級で金メダルを獲得した小原日登美さんに「八戸市スポーツ大使」の委嘱状を交付した。小原さんは工大一高、中京女子大（現至学館大）卒。世界選手権8度の優勝を誇るなど、長期にわたり女子レスリング界をけん引してきた。ロンドン五輪で現役を引退。現在は自衛隊体育学校で後進の指導に当たっている。市スポーツ大使は、八戸市ゆかりのスポーツ選手に地元の魅力をPRしてもらうことが目的。これまでに3チーム、1個人が委嘱を受けている。

【産業】

記事	概要
（5）	**東北新幹線八戸開業１５周年 一層の経済・観光振興に意欲** 東北新幹線盛岡－八戸間開業から12月1日で15周年を迎え、JR東日本は2日、八戸駅でセレモニーを開いた。セレモニーでは、JR東日本盛岡支社の大内敦支社長や小林眞八戸市長らがテープカットで節目を祝った。新幹線改札内や東西自由通路では、盛岡さんさ踊りや八戸えんぶりなどの郷土芸能が披露された。地元の観光・経済関係者は国内外から訪れる利用客の拠点となる同駅を生かし、一層の地域発展に取り組む決意を新たにした。

（６）	**JR八戸線　新型車両「キハE130系500代」デビュー** JR八戸線（八戸ー久慈間）で12月2日、新型車両「キハE130系500代」が営業運転を開始した。ホームでは、市内外から訪れた鉄道ファンや親子連れが早速乗り込んで車内を見たり、車両の写真を撮ったりしてデビューを歓迎。市民や観光客約140人を乗せると、熊谷徹哉駅長の「出発」を合図に汽笛を鳴らしながら出発した。終点の久慈駅では地元の観光関係者らがホームで横断幕を持ち、大漁旗を振ってお出迎え。駅舎内では甘酒を振る舞った。八戸線の車両は平成30年3月までに、現在運行中の「キハ40系」から順次、新型に置き換えられる。
（７）	**「３０１０運動」ホテル・飲食店がPR　～忘新年会の残食減らそう～** 宴会での食べ残し削減を目指し、八戸市内のホテルや飲食店が市と連携して4月から取り組んでいる「3010（さんまるいちまる）運動」。乾杯後の20～30分間と終了前の10～15分間は自分の席で食事を楽しもうーとの趣旨である。この運動は長野県松本市で始まり、国が全国に呼び掛けている。食べられるのに廃棄される“食品ロス”は、全国で年間630万トン。八戸市で1100トンと推計される。市は各施設にポスターやチラシを配布し、周知を図っている。一方、施設側は幹事と打ち合わせる際に運動の趣旨を伝えたりするなどして、認知度アップに努めている。
（８）	**八戸学院グループ 紹介事業　八戸などの企業５社がフィリピンの学生採用へ** フィリピン国内のIT系の大学を来春卒業する20人が、2018年10月から八戸市などの企業5社に就職する見通しであることが分かった。学校法人光星学院の子会社「八戸学院グループ」が進める海外人材の紹介・育成事業の一環。20人の採用枠は決定したが、実際に採用する学生は今後、選考する。選ばれた学生は来春から現地で半年間日本語のトレーニングを受けた上で来日する。今後、採用枠はさらに拡大する方針で、八戸学院グループは、2019年度までに100人程度の学生を日本に呼び込みたい考えである。
（９）	**日本公庫　みろく横丁に外国人との“意思疎通シート”贈呈** 日本政策金融公庫八戸支店は、八戸屋台村「みろく横丁」の全26店舗に外国人との接客時に使用できるシート「指差しコミュニケーションツール」を贈呈した。屋台の雰囲気を楽しみながら郷土料理や地元食材などを満喫できるみろく横丁では、訪日外国人観光客（インバウンド）が年々増加。シートは指を使って簡単に会話ができるのが利点で、年末年始の繁忙期を前におもてなし向上が期待できる。
（１０）	**駅弁味の陣２０１７　吉田屋の「うにとウニと雲丹 味くらべ弁当」が食べたい駅弁No.１** JR東日本は、はがきとインターネットの投票で管内の人気駅弁を決める「駅弁味の陣2017」の結果を発表した。見た目や盛り付けの評価が最も高い「盛付賞」には、三咲羽や（三沢市）の「青森のぜいたく弁当」（税込み1300円）、ネット投票で食べたい駅弁ナンバーワンに輝いた「そそられ将軍」には、一つの駅弁で3種類のウニの味が楽しめる吉田屋（八戸市）の「うにとウニと雲丹　味くらべ弁当」（1180円）が入った。両駅弁は八戸駅や新青森駅などで販売されている。
（１１）	**八戸港２０１７年水揚げ　２年連続１０万トン割れ** 八戸市水産事務所によると、2017年の八戸港の水揚げ実績は、数量は9万9972トン（前年比1%増）と10万トンにわずかに届かず、2年連続の大台割れ。金額は199億9038万円（15%減）で、2年ぶりに200億円を下回った。全国主要魚市場ランキングは数量が7位（前年と同じ）で、金額が9位（前年5位）。魚種別ではイカが3年連続の不漁に沈んだ一方、イワシは数量を伸ばし続けており、魚種交代の傾向が鮮明となった。海の環境変動による資源増減が背景とみられ、水産業界を取り巻く状況は厳しさを増している。

【地域】

記事	概要
（１２）	**種差小が内閣総理大臣賞受賞　海岸清掃や２９年間の資源回収評価** 八戸市立種差小は、29年間にわたり取り組んできた資源回収や地域連携による環境美化活動が評価され、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会（東京）が10月に行った功労者等表彰で、内閣総理大臣賞に輝いた。同校は、1968年から児童と保護者、地域住民が一体となり海岸清掃活動を実施。89年から始まった缶などの資源回収活動やごみ拾いに取り組みながら、地域の特色を学び、発信する活動を積極的に行ってきた。11月27日、児童らが受賞を伊藤博章教育長らに報告し、活動の継続を誓った。
（１３）	**「マリエント『ちきゅう』たんけんクラブ」　海洋科学 学んで１０周年** 八戸市水産科学館マリエントで活動する「マリエント『ちきゅう』たんけんクラブ」が12月1日で発足から10周年を迎えた。同クラブは、マリエントに国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）所有の地球深部探査船「ちきゅう」を紹介する「はちのへ『ちきゅう』情報館」がオープンした2007年に発足。海のまち・八戸ならではの取り組みは地域に浸透し、10人ほどだった会員は現在、182人を数える。実際に海洋研究を志す学生もいて人材育成に貢献している。2日にはマリエントで記念式典が開かれ、会員や関係者がさらなるクラブの発展を誓った。
（１４）	**八高専　CG分野のコンテスト「ニコグラフ２０１７」でベスト作品賞受賞** 11月に盛岡市で開催された、コンピューターグラフィックス分野などの研究成果を競う「ニコグラフ2017」（芸術科学会主催）で、八戸高専の専攻生ら4人が発表した北限の海女の泳ぎを擬似体験できる仮想体験システムが、ベスト作品賞を受賞した。4人が発表したシステムは、体の動きを感知するセンサーを肘と手に装着したり、目にゴーグルのような物を取り付けたりすると、ウニを採取する動きが擬似体験できる仕組み。同校初の快挙で、学生は「長年改良を続けてきたので受賞は本当にうれしい」と喜んでいる。
（１５）	**全日本洋装技能コンクール　八戸市の佐藤千鶴子さんが経産大臣賞** 八戸市の「アトリエSENソーイング洋裁教室」主宰の佐藤千鶴子さん(70)が、11月に都内で開催された「2017全日本洋装技能コンクール作品発表会」のフォーマル部門にイブニングドレスを出品。4位に当たる経済産業大臣賞と文化服装学院長賞のダブル受賞を果たした。全国から150作品の応募があり、フォーマルとカジュアルの2部門に分かれ、デザイン性や技術の精度などが審査された。2004年から毎年出品し続け、今回が最上位。佐藤さんは「大臣賞は憧れだった。うれしい」と喜んでいる。
（１６）	**みちのく庭園（八戸）庭職人・橋本さん　庭空間施工例コンテストでトリプル受賞** 八戸市の造園業みちのく庭園で庭職人を務める橋本卓さん(34)が設計、施工したガーデンエクステリアが「第25回タカショー庭空間施工例コンテスト」で、最も優れた作品に贈られる「ガーデン大賞」に輝いた。コンテストは、ガーデニング関連商品の開発・製造などの大手「タカショー」(和歌山県海南市）が主催。住宅の外構や庭環境といったガーデンエクステリアについて、美しさや技術などを部門別に審査した。7部門のうち、2部門で金賞も受賞。一度に3つの最高賞を獲得するのは、同コンテストで初の快挙という。
（１７）	**２０１５年都道府県別平均寿命　青森県が男女とも最下位** 厚生労働省が発表した2015年の都道府県別生命表で、青森県民の平均寿命は男性78.67歳、女性85.93歳と共に全国最下位だった。平均寿命は1965年から5年ごとにまとめられ、男性は75年から9回連続、女性は2000年から4回連続でワースト。一方、前回（2010年）からの伸び率で男性が全国3位になるなど改善傾向も見られたが、「短命県返上」はならず、行政施策や生活改善の加速が急がれる。

（１８）	**八戸盲学校で短歌学習会　講師に歌人・梅内美華子さん** 八戸特派大使で八戸市出身の歌人梅内美華子さんによる短歌学習会が12月8日、青森県立八戸盲学校で行われた。八戸市が推進する「八戸大使ふるさとセミナー」の一環で、同校では2013年度から取り入れている。小学部と中学部の児童、生徒4人が、三十一文字に自分の体験や思いを込める短歌の面白さを学んだ。参加した小学生は「ちょっと難しかったけど楽しく作れた。来年も梅内さんと一緒に短歌を作りたい」と充実感をにじませていた。
（１９）	**～届け 友好のボート～　八戸⇔米国オレゴン州ミニボートで7200キロ横断** 約7200キロ離れた八戸市と米国オレゴン州の小学生が、衛星利用測位システム（GPS）を搭載したミニボートを互いに太平洋の両岸から流し、交流することになった。東日本大震災の津波で流出した厳島神社の鳥居の笠木が同州から返還されたことが縁で立ち上がった企画。ボートは全長1メートル程度。ガラス繊維製で、それぞれ5隻ずつ流す。八戸側の船は順調に漂流すれば、約半年で米国に到着する。八戸側から参加する小学生は「無事に米国に届けば良いな」と期待に胸を膨らませている。
（２０）	**中居林小が「地域学校協働活動」推進に貢献　文部科学大臣賞を受賞** 地域と学校、保護者が連携した教育活動に取り組んでいる八戸市立中居林小が、「地域学校協働活動」推進に貢献したとして文部科学大臣表彰を受けた。同校では、地域住民や保護者からなるボランティアチーム「中小グリーン」を組織し、放課後学習の補助や登下校時の交通指導などを実施。学校生活の充実や、地域の活性化につなげている。12月20日、中村雅臣校長らが市教委に伊藤博章教育長を訪ね、地域と歩む学校づくりのさらなる推進を誓った。
（２１）	**エレクトーン世界大会 一般部門　川上さん（ウルスラ高3年）が優勝** 電子オルガンのプロを数多く輩出する世界大会「ヤマハエレクトーンコンクール2017」（12月2日、大阪市）の一般部門で、八戸市の東京堂八戸センターに通う川上天馬さん(18)＝八戸聖ウルスラ高3年＝が優勝を飾った。同部門は各地の大会などを最高賞で通過した学生、シンガポールの大学准教授ら15人が出場。オリジナル曲と課題曲を披露する。川上さん作曲の「overcome」は、約15年の電子オルガン人生を振り返り、「高い壁を乗り越える」という覚悟をテーマにした。「これまでの挫折や挑戦を詰め込んだ」と語るオリジナル曲を演奏して勝ち取った結果に「やっとここまで来られた。すごくうれしい」と喜んでいる。

【文化・スポーツ】

記事	概要
（２２）	**八戸市立屋内スケート場　世界ジュニア選手権招致へ** 2021年に開催予定の「世界スピードスケートジュニア選手権」について、日本スケート連盟は、2019年秋供用開始予定の八戸市立屋内スケート場を会場として招致を目指す方針を決めた。2018年4月までに、国際スケート連盟(ISU)に対して立候補する。その後、6月に開かれるISUの理事会で決まる予定。大会開催時期は未定だが、2021年2～3月となる見込み。実現すれば、屋内スケート場完成後に初めて開かれる世界大会となる。
（２３）	**八戸駅西地区にゼビオアリーナ建設着手へ** 八戸駅西地区のアイスホッケーをメインとする多目的アリーナ建設計画で、事業主体となる大手スポーツ量販店「ゼビオ」グループ（福島県郡山市）が建設に着手する方針を固めた。八戸市が土地を無償で貸与し、施設完成後も一定期間、施設の使用権を借り上げて市民にサービスを提供する支援の枠組みもほぼ決定。アリーナは収容人数3千人規模で、2020年ごろの完成を視野に入れる。建設費を含めた総事業費は数十億円に達する見込み。基本的にゼビオ側が建設、管理・運営を行う。

ふるさと寄附金のご案内

「ふるさと寄附金」とは、市内外を問わず、「八戸を応援したい」という方々から広くご寄附をいただく制度です。これまで納めてもらっていた税を「ふるさと寄附金」に振り替えていただくことで、直接、寄附者の意向を八戸のまちづくりに反映することが可能となります。

◆ 寄附金の使いみちをお選びいただき、「震災復興基金」「奨学ゆめ基金」などの基金積立や、教育・福祉・環境などの各種事業に充てることができます。
◆ 寄附をされた金額のうち2,000円を超える分について、一定限度まで住民税の税額控除がうけられます。
◆ 法人・団体からの寄附も受付しています。法人の場合、地方公共団体に対する寄附金は全額が損金算入できます。
◆ 寄附をいただいた個人の方には、金額に応じて、八戸せんべい汁セットやいちご煮セット、八戸いかごはんギフト、南郷そば・つゆセットなどの特産品を進呈いたします。
◆ 総務大臣からの通知（平成29年4月1日付け総税市第28号）を踏まえ、平成29年7月から、八戸市内在住の方へのお礼の品の進呈を取りやめることとしております。

10,000円以上30,000円未満 ・・・特産品A1品

30,000円以上50,000円未満 ・・・特産品B１品 または 特産品A２品

50,000円以上100,000円未満 ・・・特産品C１品 または 特産品A・B各１品

100,000円以上 ・・・・・・・・ 特産品D１品 または 特産品C２品 または 特産品A・B・C各1品

詳しくは https://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/02203 をご覧ください。

お申込み方法

ホームページ ⇒ 八戸市ホームページ（http://www.city.hachinohe.aomori.jp/furusato/）から、「ふるさと寄附金申込フォーム」に必要事項を入力して送信してください。

郵 送 ⇒「ふるさと寄附金申込書」に必要事項を記入して、八戸市住民税課へ郵送してください。「ふるさと寄附金申込書」は郵送でお届けしますので、八戸市住民税課までご連絡ください。ホームページからもダウンロードできます。

＜宛 先＞ 〒031-8686
青森県八戸市内丸一丁目1番1号 八戸市 住民税課 ふるさと寄附金担当
TEL：0178-43-9232（直通）、Email：jumin@city.hachinohe.lg.jp

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお立ち寄りください。

八戸市東京事務所 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館５階
TEL：03-3261-8973／FAX：03-3239-6723／Email：tokyo@city.hachinohe.lg.jp
所長 古町有加 主査 奈良岡邦彦 嘱託 籠利京子